

海を照らす灯台のなかまたち (20)

～大崎鼻灯台～
(おおさきはなとうだい)

国道378号を三瓶から明浜に向かって約15キロ、前回紹介した「三瓶高島灯台」のある下泊からすぐ近く、三瓶と明浜の境に「大崎鼻灯台」があり、灯台付近は「大崎鼻公園」として整備されています。



国道沿いに「大崎鼻」の看板があり、灯台はここから800メートル下ると駐車場もあり、展望所からは佐田岬、日振島、九州まで見渡せます。

一帯が昭和40年(1965年)、佐田岬半島・宇和海県立自然公園に指定されました。

この自然公園は、日本随一の細長い佐田岬半島と宇和海北部一帯の島しょ部、沿岸部の八幡浜市、伊方町、西予市の東西50キロ、南北25キロの地域にわたり佐田岬半島の海蝕景観と展望良好地点並びに宇和海北部の典型的なりアス式地形を示す海岸と多島、断崖などの海洋景観を誇り、愛媛県の県立自然公園となっています。

また、ここは西予市指定記念物（史跡）「大崎狼煙場跡」で江戸時代後期、宇和島の殿様の参勤交代の連絡手段として、殿様が宇和島に帰るとき、三崎（佐田岬）を回らず、旧瀬戸町三机から塩成へ山越して宇和海を船で移動した。

それで出港を知らせる狼煙場が5カ所あり、最初が三机山頂、次に穴井の大島、三番目がここ大崎鼻、そして吉田の大良鼻、最後は宇和島の九島と狼煙を上げて合図を送った。

大崎鼻の狼煙が上がると高山からの早船で宇和島城下まで到着時刻を知らせた。その狼煙場の石組が残っています。

整備されている公園は、地元の田之浜の「須賀 利夫さん、キヌ子さん」ご夫妻が、平成14年から今日まで20年にも及んで公園づくりに励まれ、木や花を植え管理されています。

公園内には、明浜町田之浜出身でハンセン病にかかり国立療養所大島青松園に入園され、長い療養生活の中で多くの詩集を出版された「塔 和子（とう かずこ）さん」の記念碑も建てられています。

公園も展望所もない昔の若い頃には何度が訪れたことがありましたが、その頃とはずいぶん様子も変わっているようです。

皆さん、是非一度訪ねて見てください。良い所ですよ。

【大崎鼻周辺図】



○大崎鼻灯台要項

所在地 愛媛県西予市（大崎鼻）

塗色・構造 白色、塔形

灯 質 単閃白光 毎5秒に1閃光

光達距離 12海里 (約22km)

高 さ 地上から構造物の頂部まで 8.3m

平均水面上から灯火まで 107.0m

地上から灯火まで 8.1m

点灯年月日 昭和25年4月3日

★「大八車」No.234 (令和3年7月10日発行) 掲載分

○大崎鼻灯台及び周辺





灯室内



灯室内



高光度 LED 灯器